

江西省にも武夷山があった?!

須賀 努 文・写真

「茶発祥の地は中国」という話はよく知られているが、「紅茶の発祥地は？」と問うと、なぜかインドなどという答えが返ってくることもある。中国と紅茶はそれほど遠く、結び付かないものだった。それは従来中国人が紅茶を飲む、というイメージがなかったからだろうか。だが最近の中国における紅茶ブーム、とりわけ福建省の金駿眉に代表される高価な紅茶の登場により、その認知度は格段に上がっており、一般の人々が中国の紅茶に興味を持ち始めている。

そんな中、中国紅茶を扱う中国の友人の紹介により、各地の茶産地を訪ねる機会が得られることになった。その数は何と18カ所もあるというので、驚いた。この機会に紅茶の好きな人にも、そうでない人にも、中国の紅茶産地の存在を示し、その歴史背景、文化背景、そして現状を紹介できればと思っている。なお中国では筆者が15年前から使っている「茶旅」という言葉が、最近各地で聞かれ、新たな産業化の気配がある。

江西省にもあった武夷山

お茶の故郷として名高い福建省、中でも武夷山は世界遺産にも登録されている風光明媚な観



は立ち入り禁止となっていると聞き、訪問を断念した。

この話を福州の友人にすると、「それなら江西省へ行こう！あそこにも武夷山があるぞ！」と言われ、何のこともわからなかったが、紅茶もあるというので、彼に連れられて、武夷山から車で江西省へ向かった。今や高速道路網が全国を網羅する中国。ここでも高速ですぐに江西省側へ抜けたが、その道のりにはトンネルがいくつあつて、最長のものは6キロにも及び、昔の人は一体どう



須賀 努
茶旅人、1961年東京生まれ。上海語学留学、北京、香港、台北で合計17年滞在。「茶旅」でアジア各地の茶畑、茶荘などを訪ね歩く。

光地であり、かつ岩茶と呼ばれる烏龍茶などでも知られる有名な茶産地である。実は世界の紅茶の発祥の地も、ここ武夷山の桐木村といわれているが、現在は自然保護地域であり、一般人

「万里茶路」の最初の鎮 河口

その中に忽然と現れたのが、「河帮茶廠」という名前の茶工場であつた。一体なぜこんなところで茶を作っているのだろうか。しかも作っているのは福建省側にある烏龍茶類ではなく紅茶であり、その地名も桐木関と、福建省の桐木村を想起させる。

筆者は現在「万里茶路(万里茶道ともいう)」という、福建・湖南・湖北で作られた茶葉がモンゴル、そしてシベリアを経由して、はるかロシアのモスクワ、サンクトペテルブルクまで運ばれた国際商路ルートに強い関心を持っているが、その福建で

港され、河口の優位性は一気に崩れてしまった。100年の夢、とでもいえばよいだろうか。

河口の現状

河口の古鎮はやはり川沿いに面して残っていたが、残念ながら、武夷山自然保護区とは対照的に、その保護は十分とはいえず、徐々に朽果てようとしていた。よく見ると、家の地下から通路がつながっており、直接川に出られるようになっているところもあり、茶葉の搬入に使われた往時をしのぶことができた。ただ川辺から港は全く姿を消しており、洗濯する女性が目に入っただけだった。

万里茶路の歴史的な意味が中国各地で盛んに宣伝される中、ここ河口でも少しずつこの歴史を見直す動きはあるようだった。古鎮の中の古い建物を改装して茶荘を開き、その歴史を説明しているところも見受けられた。前述のように、紅茶そのものを復活させ、ビジネスにつなげることに、河口の歴史的意義を問い直す活動も始まっている。河口で加工された紅茶については、その輸出先



さびれゆく河口古鎮

であったイギリスなど、海外からの関心も高まっております。大学の研究者などは直接この地に、資料を求めて訪れているとも聞いた。これからこの地では、茶の歴史、豊かな自然環境、そして新たに作られる紅茶で、文化旅行産業の華が開くだろうか。いずれにしても250年前の紅茶が一体どんな味や香りであったかは、誰にも分からないのだが。

図説 全18巻完結間近

中国文化百華

1 漢字の文明 仮名の文化

文字から見た東アジア 石川九楊著

漢字を共通基盤とした東アジア文明圏。中国と各国の協調と緊張の構図を描き、支配の文字・漢字文明を柔らかくサポートする脱政治の仮名文化の世界平和への役割を展望。 ●3200円

11・12 東アジア 四千年の永続農業

中国・朝鮮・日本

(上・下)全2巻 F・H・キング著、杉本俊朗訳、久馬一剛・古沢広祐解説 ●各3200円

略奪農業の行く末を危惧した米国人土壌学者が驚嘆した、東アジア農業の永続性と人口扶養力。その実像をつぶさに報告した一世紀前の詳細な視察記。写真多数。

全18巻 各3200円

- 2 天翔るシンボルたち(幻想動物) 張曉著
- 3 おん目の雫めぐはばや(鑑真) 王勇著
- 4 イネが語る日本と中国 佐藤洋一郎著
- 5 しじまに生きる野生動物たち 今泉忠明著
- 6 神と人との交響楽(仮面) 稲畑耕一郎著
- 7 王朝の都 豊饒の街(都市) 伊原弘著
- 9 癒す力をさぐる(医学) 遠藤次郎他著
- 10 火の料理 水の料理 木村春子著
- 13 「天下」を目指して(国家像) 王柯著
- 14 真髓は調和にあり(吳清源) 水口藤雄著
- 15 風水という名の環境学 上田信著
- 16 歴史の海を走る(造船) 山形欣哉著
- 17 君 当に酔人を怒すべし(酒文化) 蔡毅著
- 18 「元の染付」海を渡る 三杉隆敏著

【最終回配本】8 日中を結んだ仏教僧 一波濤を超えて決死の渡海 頼富本宏著 4月刊行予定

★「中国文化百華」案内進呈…下記「人民中国」係

農文協 価格税込

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1
電話03(3585)1141 FAX.03(3589)1387
http://www.ruralnet.or.jp